

議 事 録

| | |
|-----------|--|
| 1 会議名 | 第4回美濃加茂市定住自立圏共生ビジョン懇談会 |
| 2 開催日時 | 平成21年11月27日（金）15時から17時 |
| 3 出席者名 | 委員：山田實紘委員、鈴木登委員、則竹邦光委員、青柳芳男委員、市橋達委員、大野寧彦委員、洞口勝則（久門圭子委員代理）、高井正文委員、小笠原伸委員、佐野綾目委員、小倉郁乃委員、渡辺厚委員、久世康夫委員 アドバイザー：細川昌彦 以上敬称略 市側：渡辺市長、宮口誠経営企画部長 行政経営課（事務局） |
| 4 議題 | 将来ビジョン（圏域のあるべき姿・キャッチフレーズ）など |
| 5 審議結果の概要 | <ul style="list-style-type: none">・ アクションプラン検討ワーキンググループ会議における検討状況の中間報告を行った。・ 本圏域の強みや弱みを再確認しながら、圏域のあるべき姿等について、各委員から意見を伺った。 |
| 6 審議の内容 | |

| | |
|--|---|
| | <p>別添次第及び資料に基づき議事を進行した。以下に要点を記す。</p> <p>1 開 会 (省略)</p> <p>2 市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (2009年9月11日の政権交代を受け) 定住自立圏に対するスタンスはまだはっきりしていないが、どのような状況であっても、「自立」していただける地域づくりを進めていかなければならない。国や政権がどうであれ我々が自分達で考えていく必要がある。 ・ ある新聞の報道によると、本地区(東海地区)の住民満足度は全国10地区のうち第7位であった。この点は、本地域の課題になるかと思う。 <p>3 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏形成協定について (事務局が資料1・2に基づき説明)</p> <p>4 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想アクションプランWG会議における検討状況について (事務局が資料3に基づき説明)</p> <p>5 将来ビジョン(圏域のあるべき姿・キャッチフレーズ等)について (山田座長が資料4の概要説明)</p> <p>6 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本圏域の将来像を考えるにあたり、単純明快に方向性を打ち出すことが重要である。 ・ 「美濃加茂に住んでみたい」と思われる、住んでみたいまちづくりを進めていきたい。 ・ 具体的には、医療・福祉・教育・安全に力を入れるべきである。産業は近隣地域や市場の影響を受けやすく、かつ美濃加茂の立地条件を考えると難しい。 ・ お金ではなく、ノウハウを活かしてまちづくりを進めていけばよい。 <p>鈴木委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここからはワーキンググループごとに振返りを行う。まずは「安心・安全」分野について伺いたい。 <p>山田座長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主役は「市民」であり、進んでまちづくりに参加することが必要である。分野によっては、市民の声が市政に反映されていないのが現状である。 <p>則竹委員</p> |
|--|---|

| | |
|-------|--|
| 則竹委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「人口・交流拡大」分野について一言、外国人学校を卒業した後、母国に戻ると、進学資格が使えないのが現状である。また、外国人学校は補助金なしでは運営できない。このような現状を踏まえた上で、実現できる具体策を示すべきである。 |
| 山田座長 | <ul style="list-style-type: none"> ここからは、「教育」分野に関わる委員に意見を伺う。他の分野に関する意見でもよい。 |
| 小笠原委員 | <ul style="list-style-type: none"> ここまではよくまとまっているが、ここからが大変である。「サービス」を生み出して成果を出していかなければいけない。 提示されている具体的な取り組み例を実践した結果、何ができるのか見えてこない。 「多文化共生」は新しい視点だが、何を目指しているのか。美濃加茂だけでなく、地域外との交流が活力になることをはっきり打ち出すべきである。 |
| 佐野委員 | <ul style="list-style-type: none"> 外国人が定住するには「仕事」が必要である。美濃加茂には仕事がないというが、探していないだけでたくさんある。例えば、「蜂屋柿」は蜂屋だけでなく、他の町でも作れる。 |
| 小倉委員 | <ul style="list-style-type: none"> ワーキンググループのとりまとめを見ると、各取り組みを誰がどのように実現するか見えない。 懇談会メンバーをはじめ、各人がそれぞれの分野で活躍し、次世代にその姿を見せることが教育だと思う。 誰もがよかったと思える構想をつくりたい。 |
| 山田座長 | <ul style="list-style-type: none"> 次は「産業振興」分野について意見を伺う。 |
| 市橋委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「観光・農業」に関わる箇所が具体的な表現に欠け、分かりづらい。 定住自立という観点から見ると、働く場所を創出しないと人材が流出し、定住にならない。 先日、特産展を開催した結果、1万5千人を超える人が集まり、来場者に喜んでもらった。こういう取り組みが続けばまちの活気になる。 「人口・交流」について、「3世代が心豊かに暮らせるまち」が一番活気あるまちになってくると思う。 3世代みんなが気軽に参加できるスポーツを振興すればよい。 外国人の方が多いので、各国のメジャースポーツを振興することも考えられる。 「元気」という視点から、特色ある学校をつくるのもひとつの手である。 |

| | |
|------|--|
| 青柳委員 | <ul style="list-style-type: none"> 価値があれば人は集まるのだから、特産品などでも価値のあるものをつ |
|------|--|

| | |
|------|---|
| | <p>くっていくべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂をアピールするために、市民一人ひとりの意識を高めることも重要である。 |
| 久世委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人口・交流」にある「定住自立圏推進ファンド」は1つの売りである。 ・ 特産品を売り出すにしても他と違うものが必要である。何らか貢献できる技術を育成して、ファンドに活かすことも考えられる。 |
| 大野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内のお互いの企業をもっと知って、話し合うことも必要である。 ・ その際、相互理解をする上で、現場・現実を見ていくことが重要である。 ・ 共生ビジョンを考える上で、お互いに変えていく、変わっていくことが必要である。 |
| 久門委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料4（美濃加茂市・坂祝町定住自立圏形成協定・共生ビジョン推進会議・将来ビジョン関連図）が分かりやすい。これを皆が理解して進めていくことが重要である。 ・ また、「自力」でやるなら優先順位をつけて進めていかなければいけない。事業の取捨選択が正念場である。 |
| 高井委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域マネジメント」が全国的にも重要視されている。 ・ その際、行政と市民が協働して取り組むことが必要であり、その観点から協定書の「人材の育成・交流」と「外部からの行政及び民間人材の確保」（いずれも「3. 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野」）が重要となる。 ・ 1番大事なのは、市民の力をつくることである。人材づくりに力を入れると、長期的な成長が見込まれる。 ・ 地域マネジメントを市民本位で進めるため、市民がいいと思う事業を極力自分たちで進めていくことが重要である。 |
| 渡辺委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安心・安全」分野は、よく盛り込まれていると思う。 ・ 「食文化・産業」分野は、地域のを外に出していくことが重要である。 ・ 「多文化共生圏の実現」では、市と県が協力して、外国人教育を進める必要がある。外国人人口は減少傾向にあるが、一方で、9割以上の方が日本に定住したいと希望している。外国人との共生が重要である。 ・ 「エコ・農業を核とした循環型社会モデルの実現」では、市民が参加することが重要であるが、同時に行政の手助けも必要である。 |

| | |
|------|--|
| 山田座長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ よく美濃加茂を「地方・田舎」だと言うが、決して田舎ではない。特に |
|------|--|

| | |
|-----------------|---|
| <p>細川アドバイザー</p> | <p>病院の質など、医療体制が充実している。老人福祉に関しても先進的である。「自立」を、そして「日本一」を目指して、民間や市民1人1人が取り組むことが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間のパワーを美濃加茂の行政にいかにもうまく使うかが鍵となり、そのことをビジョンで示すべきである。 ・ 市長が大学誘致をうたっているが、偏差値が高い「いい大学」ではなく特色ある国内唯一の「新しい大学」を誘致すべきである。 ・ 個性を重視し、それに対して全国から人が集まることによって、地域活性につながる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アクションプランを見ると、ワーキンググループ間で差がある。 ・ 「安心・安全」は「背景－問題意識－取り組み」が明確に示されている。 ・ 「人口・交流」では、本分野の問題意識や背景、より具体的な策を示す必要がある。 ・ 特に「スポーツ」では、地域内の人やるスポーツと地域外から人が来てやるスポーツでは目的が異なる。「スポーツで人を引き寄せたい」なら、地域外との関係で厚みを持たせる発想が重要である。 ・ 座長の発言であった、特色ある大学で人材づくりを仕掛けることも重要である。 ・ 「産業・観光」についても、地域外との関係で厚みを持たせることが重要であり、地元の人だけでなく、地域外から見に来られる仕組みを仕掛けることが必要である。 ・ それぞれの目的や具体的手段を考えることが必要であり、それがアクションプランにつながる。 ・ 一般的に特産品は、開発は皆できるが、販路拡大がどの地域でも課題となっている。 ・ 協定書に関して言うと、人材育成が重要であり、合同研修も大切だが、日常的に現業間が交流するための仕掛けづくりが必要である。 <p>7 その他 (事務局から今後のスケジュールを説明、市長から御礼の挨拶)</p> <p>閉会</p> |
| <p>7 会議資料</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想の策定経過 2 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏の形成に関する協定書概要 3 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想アクションプランWG会議の状況 4 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏形成協定・共生ビジョン推進会議・将来ビジョン関連図 |